

国際教養学科 vol.9

ガストロノミックツーリズムで地域の文化や歴史を学ぶ

美食の街 函館で美味しく食べて学ぶ地産地消

2/21～23、演習科目「地域探究Ⅰ」では函館を舞台に、「食」を通じて地産地消、多様な人々との交流、土地の成り立ちおよび地域の文化を学ぶフィールドワークを実施しました。函館国際ホテルにて、道南食材をふんだんに使った薬膳中国料理、最終日のスペイン料理レストランバスクも、函館はじめ道南食材をふんだんに用いたコース料理を堪能しました。

Chefが料理を通じて故郷への想いをこめた一皿一皿を、食材、産地や生産者に想いを馳せ、有難くいただきました。さらに、全国で実施される飲み食べ歩きのお食イベントのルーツとしての取り組みの解説や、コロナ禍を経て5月に再開する「函館西部地区バル街」に賭ける想いも拝聴できました！



地元の方々との交流によりわかるまちの魅力

今回は函館観光の定番といわれる場所の他にも、地元の方々と交流できるような機会を創り、まちの様子を直に伺い、熱い「函館愛」や地元の方々同士のつながりの強さを感じました。函館市電 谷地頭電停前では、日頃、旅行者と地域の皆さんが憩いの場として集い、賑わうお土産屋さんを訪ねて、店主が温かいお茶などでもてなしてくださり、歓談できました。テレビや映画などのロケ撮影の際、監督達が必ず訪れるといわれるcaféのマスターも訪ね、作品完成までのエピソードなどを詳しく解説していただき、フィルムコミッションでまちの魅力を発信する取り組みを、現地で直に学ばせてもらえました。



まちの歴史・文化見つめ、視野を広げる

フィールドワーク初日に訪問した市立函館博物館では、函館の歴史を文化的な側面から解説していただきました。さらに、館内展示の工夫や見所など丁寧な解説を受ける中で、博物館そのものの楽しみ方を再認識できました。

最終日に訪れた箱館奉行所や五稜郭タワーでは、初日の博物館見学に次いで、現在の函館に至る歴史を紐解く想いで、展示物や建造物の設えなどにも注目しました。事前学習の内容を振り返り、まちの歴史や文化を考えました。

